

# 研究所だより

(発行) 土佐清水市教育研究所  
二〇〇八年八月二十六日  
第二七三号  
問い合わせ(八二)三〇一六

## 教育相談講座

構成的グループ・エンカウンター

の基礎理論

(Structured Group Encounter 略称S G E)

1 エンカウンターとは  
出会い・・・本音と本音の交流

2 エンカウターの種類  
非構成的ベシックエンカウンター  
構成的

「構成的」とは、「枠を与える」という意味。

おもな枠・・・グループのルール、グループサイズ、時間制限など

☆構成的グループエンカウンターを

- ・ 選ぶ理由
- ・ 短期間で仲良くなれる
- ・ 体験レベルが調節できる(心的データ)
- ・ メッセージを減らすことができる
- ・ 課題を学び練習すれば、誰でもできるようになる

3 構成的グループ・エンカウターの目的

ふれあい(本音と本音の交流)と自己発見(自己の固有性・独自性・かけがえのなさの発見)を目標とし、個人の行動変容を目的とする。

- ・ 自己を知る
- ・ 自己を表現する
- ・ 自己を主張する
- ・ 他者を受け入れる
- ・ 他者を信頼する
- ・ 他者とのかわりをもつ
- ・ これらのことを体験する

4 構成的グループ・エンカウターの実際

- ① インストラクション(導入)ルール
- ② エクササイズ
- ・ アイスブレイキング
- ・ メインのエクササイズ

③ シェアリング(ふりかえり)  
認知の拡大、修正をねらいとする話し合いやふりかえりシート等  
※場合によっては介入・・・心的な外傷のおそれがあると感じた時

5 エクササイズの選び方  
① 初期には、抵抗の少ないもの(楽しくできるもの)  
② 中期には、信頼関係が深まるもの(手をつなぐもの)  
③ 「関係が深まったら、自分を語れるもの(自己主張の含まれるもの)」

6 学級の中で  
希薄な人間関係  
(失敗できない、消極的になる)  
固定化された人間関係  
(あきらめる、無気力になる)  
孤独・孤立 心的なよろい

「失敗が許されるようなクラスを作るには・・・」  
「固定化されたクラスを変えていくには・・・」

構成的グループ・エンカウンター

↑人間関係の促進↓

ホンネとホンネの交流↓自己開示

安心して何でも話し合える

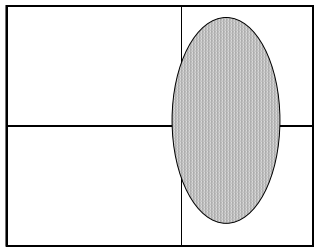
雰囲気のクラス

自主的・自発的な行動

↑学習意欲の向上

① 縦に伸びた状態（管理型）

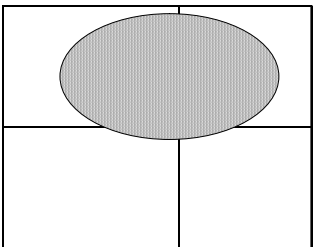
（ヘリレーションの確立がやや低い学級集団）



エクササイズにゲーム的な要素を盛り込み、子どもたちが楽しんでいる。交流できるように展開する。教師も自己開示をするなど、役割を超えたかわりの工夫が必要。

② 横に伸びた状態（なれあい型）

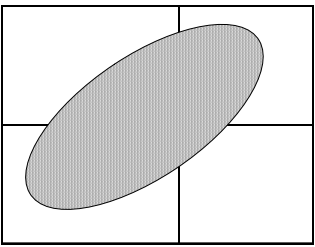
（ヘリレーションの確立がやや低い学級集団）



インストラクションでルールの確認を簡単、実際にい、ルールを守るという意識を高める。やり方が複雑でなく、短時間でできるものが望ましい。

③ ななめに伸びた状態（荒れ始め型）

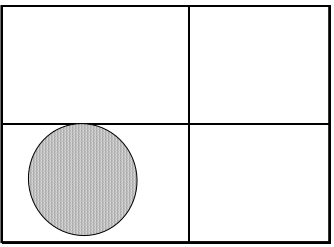
（ヘリレーションの確立がともに低い学級集団）



実施する目的をしっかりと説明し、同意の上で参加する。この約束をする。説明と心的外傷を負わないような配慮が必要。

④ 左下に集まった分布（崩壊型）

（ヘリレーションが喪失した崩壊状態の学級集団）



無理に実施しない。個別に書いたものを教師が集めて整理し、一枚のプリントにして配布する。子どもも同士の感情交流をうながす。

学級集団の状態の把握が適切にできれば、SGEの効果は向上し、学級集団の育成も計画的にできる。

「構成的グループエンカウンターを学校で実施していくために」

- ① 四月、五月、九月は特に重点的に取り組むとよい  
（さいころトーキング夏休みバージョン、すごろくトーキング、質問ジャンプなど）
- ② 保護者会でも有効  
（他者紹介、となりのとなりなど）
- ③ 短時間でよいので、こつこつ積み重ねることが大切  
（朝の会、帰りの会など）
- ④ 同じエクササイズを繰り返し実施することも有効
- ⑤ ねらいを明確に伝える
- ⑥ デモンストレーションが大切  
（特に小学生の場合は、実際にやってみせることが大切）
- ⑦ エクササイズの空気を作ることも大切  
（バックグラウンドミュージックや明るさの調整等の演出で雰囲気を出す）
- ⑧ エクササイズの構成の仕方について  
・ 一人から二人へ、そして四人、六人へ  
・ 身体接触の少ないものから身体接触が必要なものへ  
・ 表面的なものから内面的なものへ  
・ 無理なく自己開示できるように構成していくことがポイント
- ⑨ シェアリングについて  
・ シェアリングが自己開示の場ある「アイ・メッセージ」で自己開示できやすいようにうながす
- ⑩ 抵抗について  
・ 抵抗を意思表示できたことを認める  
・ タイムキーパーや文書配布などの役割をしてもらう  
・ 表情を見ながら、再び参加することを促しても良い  
・ シェアリングの時も参加を促し、見学していた自分について振り返ることも大切